

全国ユース 環境ネットワーク

第6回全国ユース
環境活動発表大会
全国大会 出場16校



第6回 全国ユース環境活動発表大会

令和3年1月22日(金)～1月29日(金)、
「第6回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」が開催されました。
開催にあたり、笹川博義環境副大臣よりご挨拶をいただきました。

ご挨拶

環境副大臣
笹川 博義



環境副大臣を務めております。衆議院議員の笹川 博義です。

第6回全国ユース環境活動発表大会の開催にあたり、一言、御挨拶を申し上げたいと思います。

本大会は、持続可能な社会の実現に向けた環境活動を行う高校生に対して交流や発表の機会をサポートし、活動のさらなる充実を支援することを目的に、環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所が共催で開催するものであります。

残念ながら新型コロナウイルス感染症対策の中での皆様方の活動ということになりましたので、その活動にはかなり制約があったのではないかと思います。その中にも関わらず活動し、そして皆で汗をかいて力いっぱい頑張ってくれたことに心から敬意を表し、感謝の意を表したいと思います。

特に高校生たちの活動を支えてくださった先生方や地域の皆様、そして多くの関係者の皆様方、さらには審査を担当していただいた先生方にも改めて深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

また今回は、コロナ禍ということで応募を見送られた学校もあったと思います。是非、次回はチャレンジをしていただきたいというふうに思っております。

さて、世界には気候危機、飢餓、衛生、様々な問題があります。だからこそSDGsという17の目標を定めて、世界各国が、そして多くの人たちがその目標達成に向けて努力をしております。また、していかなければならないと思います。

昨年、我が国では、菅総理が2050年カーボンニュートラルの実現を目指すとして国内外に向けて宣言をいたしました。脱炭素社会の実現を目指すという宣言であります。環境省は、気候危機とコロナ危機の解決のため脱炭素社会、循環経済、分散型社会への移行を進めてまいります。各地域のそれぞれの特徴や資源を活用しながら地域からSDGsの実現に取り組む地域循環共生圏を強力に推進してまいりたいと思います。

その中であって、若い力である高校生の皆様方の活動は大いに力強いものを感じますし、頼りになります。これからも地域社会の中にどんどん出て行って、活動の領域を広げていって、是非、このSDGs17の達成目標、脱炭素社会実現に向けて力を貸してください。そしてまた、高校生たちの無限な可能性のある力を発揮していただきますようお願いいたします。

最後になりますが、全国の高校生の皆様、そして、生徒の将来を考え、常に生徒に寄り添いながら活動を支えて下さっている先生方、子供たちに温かい手を差し延べていただいている保護者の皆様方、地域で高校生の活動を応援している多くの皆様方に重ねて心から感謝の意を表し、そしてまた今後益々の活動に心からご期待を申し上げながら私の御挨拶とさせていただきます。

どうか今後とも、皆様、宜しく願い申し上げます。



第6回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

〈実施概要〉

日程 令和3年1月22日(金)～1月29日(金) (発表動画 Web閲覧期間)

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステナビリティ高等研究所)

後援 読売新聞社

協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス (EPO) / 地球環境パートナーシッププラザ (GEOC) / ESD 活動支援センター

協賛 キリンホールディングス株式会社 / 協栄産業株式会社 / SGホールディングス株式会社 / 株式会社タニタ



受賞校のみなさん、おめでとうございます！

全国8地方の地方大会から選出された16高校(団体)が全国大会に出場しました。

今年は、高校生が発表動画を制作して応募。Web上で動画を発表・閲覧し、審査を行いました。

新型コロナウイルスの影響で環境活動、SDGs活動が制限される中でも、全国の高校生が熱心に活動をしてきました。

いずれの活動内容も発表もすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめすべての出場高校に賞が贈られました。

表彰された16高校の活動をご紹介します。

環境大臣賞

宮城県農業高等学校 科学部チームsmiles

サクラの新品種開発で桜の緑被率を上げる ～被災農業高校が立ち向かう震災10年目の挑戦！～

科学部で代々、東日本大震災からの復興のため津波跡の校庭に残った桜を用い、増殖と植栽を繰り返し、間もなく千本となりました。

人を魅了される桜とより多くの地域住民を繋ぐことで、結果、緑被率も上がると考え品種開発も行ってきました。候補の桜について調べたところ、3.5%濃度の塩水を使った葉の塩害実験では桜13種類の中で2番目に低く塩害が非常に起き難いこと、ほかに二酸化炭素を多く取り込む性質も見られ、今後街路樹や沿岸部の緑化、さらには森林の一部として貢献できると考えられました。そこで地区の名前を1字貰って「玉夢桜(タマユメザクラ)」と命名。地区と共同で申請したところ、2020年8月、公益財団法人日本花の会から新品種の認定を受けました。

私達は現在、昨年の台風19号の被災地などで、オンリーワンの桜、奇跡の桜、そして新しい植栽法を紹介しながら、桜でなければできないCO₂吸収促進を提言しています。



環境再生保全機構 理事長賞

長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部

規格外みかんが生み出す新たな地域興しと廃棄物の再利用

長崎県は温州みかんの生産量53,500トンで全国第5位を誇る。しかし、農家の悩みとしてブランド力が低い、規格外品が多い(約20%)などがあげられる。そこで、新しい長崎ブランド品の開発を目的とした。また、加工の際に生じる廃棄物の再利用を行った。

本活動は地元の伝統菓子諫早おこし、長崎みかんのPRを行うため、両者をコラボさせ「みかんおこし」の開発を行い、令和元年5月に商品化を達成した。そして、令和2年2月、長崎県特産品新作展において「長崎手みやげ大賞」を受賞し、全国へPRされている。

また、加工の際に生じる果皮などは、廃棄物として処分され、焼却する際に生じる二酸化炭素は環境に悪影響を与えている。検証の結果、廃棄物を用いた子実体の菌床栽培に利用できることを突き止め、令和2年3月、発明の名称「子実体栽培方法」で特許を取得した。

この技術は地元の栽培農家で実証実験に成功し、今後廃棄物削減が期待される。



国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

富山県立滑川高等学校 海洋クラブ

持続可能な社会を目指した未利用資源イワシの活用

私たちが住む富山県滑川市は春の風物詩としてホタルイカが有名な地域である。しかし、私たちがホタルイカの定置網実習をした2年前はホタルイカが不漁で、イワシが多く漁獲されていた。イワシは全国的に安値でしか売れない。ここ滑川の海でも例外ではなかった。そこで、私たちは今までホタルイカのようにスポットライトを浴びる存在ではなかったイワシをアップデートさせる取り組みを始めた。また、この活動を発展させ、SDGsの目標が達成できるのではないかと考えた。イワシは缶詰として商品となった。缶詰としては使えない残渣は段ボールコンポストにして肥料にし、植林活動で山に撒いた。山が豊かになることで海が豊かになり、魚が行きつけられる持続可能な漁業を目指した。また、イワシは漁師から無料で提供していただいたため、缶詰の原価が安く抑えられた。そのため、売り上げの一部をユニセフを通して教材を寄付することを目指している。



第6回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！



読売新聞社賞

愛媛県立長浜高等学校 水族館部

日本初の高校内水族館「長高水族館」プロジェクト

長高水族館は、水族館部の生徒が運営する日本初の高校内水族館です。現在2つの教室と中庭、玄関などに約100個の水槽を設置し、地元の脇川と伊予灘の生物、愛媛県南部の宇和海の生物、沖縄の生物、約150種2,000点を飼育しています。毎月第3土曜日に一般公開し、平均500人が来館します。今年で22年目を迎え、これまで11万人を超える方に環境教育の場を提供しました。公開日には、水族館部の生徒が展示水槽の解説するとともに、ハマチの輪くぐりショーなどのイベントを通して、来館者に生き物のすばらしさを体験いただきます。さらに公開日には、町内の活魚店や飲食店などの水槽を水族館に見立てたフィールドミュージアム「長浜まちなみ水族館」が開館し、長高水族館を起点に来館者は町を回遊します。この取組を、町のシンボルであった長浜水族館の復活につなげたいと考えています。



高校生が選ぶ特別賞

青森県立むつ工業高等学校 課題研究 地中熱利用による融雪研究班

R2 地中熱利用による融雪研究班

平成27年度より課題研究「地中熱利用による融雪研究」に取り組み6年目を迎える。地球上どこにでもある地中熱を利用して、雪かきの必要がない街づくりや雪かき不要な通学路を確保したいという思いから研究が始まった。地中熱は外気温 -11.4°C の時でも地下10mで 8.3°C （実験データから）の熱があり安定した熱が得られる。構造的オリジナリティーとして、断熱材で熱を上部だけに伝える工夫を施し、アルミ缶を利用し蓄熱及び放熱を促し、融雪できることを実証する。

6年目の今年度は、ドカ雪時の融雪不足改善を目指し、地下10mの採熱用ポリエチレン管をダブル化することで、不凍液をゆっくり回して採熱の熱交換時間を増やす工夫を試みた。今冬に実証実験に取り組みデータ取得を行うことで、融雪効率向上を証明したい。

来年度は、いよいよ融雪面にビニールハウスを建て水耕栽培に挑む。また、街区地域融雪の有効性を発信することで、SDGsターゲット、2番・7番の達成を目指したい。



先生が選ぶ特別賞

長野県長野高等学校・長野日本大学高等学校 学生団体「Gomitomo」

海無し県長野からプラゴミを無くす！「清走中～Run for trash～」

「ゴミ拾いの楽しさを広めたい」それが「清走中～Run for trash～」の最大のミッションでした。世界中の海がゴミだらけになっている現状を知り、海無し県の長野でも何か出来ないかと考え、たどり着いたのがゴミ拾いでした。初めは使命感や、義務感に駆けられ、ゴミを見つける度に憤慨していましたが、徐々にゴミ拾いに秘められた「ワクワク」に気付くようになりました。実はゴミ拾いって超楽しいんです!!

落ちていたゴミを木の枝などその場に落ちているいわば「アイテム」を駆使して拾えた時の爽快感、ゴミ拾いを通じて地元の方と交流が生まれたり、新たな友達ができたり……多くの魅力があります。

そこでゴミ拾いとゲーム要素（ポイント制、ミッションなど）を組み合わせて、老若男女が参加できるごみ拾いイベント「清走中～Run for trash～」を長野県長野市で開催しました。

楽しくゴミ拾いすることで仲間も増え、まちも綺麗になる活動を続けていきたいと思えます。



審査委員

〈審査委員長 講評〉

地域資源を見出し、その実践・実用化に向けて多様な視点で挑戦している取り組みに感動を覚えました。また高校生らしくそれぞれの視点を生かしながら、多角的に取り組む姿にも未来への希望を感じることができました。高校生の皆さんが持続可能な地域・社会をつくる担い手となって、鳥が飛び立つように地域へ変革の風を吹かせていくことを期待しています。



審査委員長
小澤 紀美子
東京学芸大学 名誉教授



審査委員
三木 清香
環境省大臣官房総合政策課
環境教育推進室長



審査委員
小辻 智之
独立行政法人環境再生保全機構
理事長



審査委員
竹本 明生
国連大学サステナビリティ
高等研究所
プログラム・アドミニスト
レーション・ヘッド



審査委員
吉池 亮
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
事務局長



審査委員
数土 伸也
SGホールディングス株式会社
総務部PR・CSRユニット
担当部長





優秀賞10校のみなさん、おめでとうございます！

優秀賞 北海道標茶高等学校
地域環境系列 環境ゼミガイド班
学ぼう自然、守ろう環境 私たちが発信する自然再生意義

「標茶高校自然満喫ツアー」は、高校敷地内に地域の方々を招き、自然や動植物、町の歴史のガイド、ドローン撮影等を実施。今年度は標茶町役場や釧路市役所、JR北海道のくしろ湿原ノロッコ号でガイドを行いました。ガイド活動はそれらすべてを含めると今年度まで、のべ47回実施しています。



優秀賞 北海道美幌高等学校
環境改善班
オホーツクの自然を守れ！PART3 オホーツクで実践した水と生き物を守る活動

特定外来生物「ウチダザリガニ」の駆除活動を通じて、絶滅危惧Ⅱ類「ニホンザリガニ」など外来種の保護活動を推進する。今年は網走川水系と網走湖の水質・マイクロプラスチック・水銀汚染に関する調査を実施。コロナ禍で交流が出来ない代わりにメディアでの宣伝やコンクールや論文掲載などでの普及・発信を実施した。



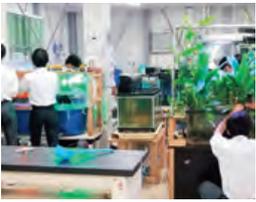
優秀賞 東京都立富士高等学校
学生団体えこま
“えこま”を創る！

環境保全と消費活動の両立をするために作られたのが「サステナブル・ラベル」ですが、認知度や商品の普及率が低いという課題があります。「サステナブル・ラベル商品を買うこと」が環境問題解決に繋がるとを広め、「商品を届ける」えこま店舗、オンライン勉強会を行い、今年度中にネットショップもオープン予定。



優秀賞 東京都立府中東高等学校
生物部
室内における養殖技術の確立

本校生物部では大学と共同研究を行い、クエ及びオニオコゼに波長の異なる可視光を照射し、魚の成長速度（体長・体重・摂食量の変化・餌の食べ方等）に変化が生じるか調べ、限られた空間で効率よく成長させるための養殖技術を研究している。ホタル幼虫のエサとなるカワニナの養殖研究等も行っている。



優秀賞 大阪府立豊中高等学校 能勢分校
地域魅力化クラブ
高校生の提案で地域電力会社設立！～エネルギーを変える。まちが変わる。～

「私たちが生まれ育った能勢町の再生」これが我々の活動のテーマである。「SW導入による能勢町活性化」の研究チームを立ち上げ、2020年7月に「能勢・豊能まちづくり」という新電力会社が設立された。今後はバイオマス発電なども検討し、地域と新電力会社と連携、持続可能な里山の発展に寄与したいと考えている。



優秀賞 京都府立北稜高等学校
環境委員会
地域を結ぶ環境委員会の取組 ～KESを基盤とした環境保護活動～

18年間連続での認証を更新しているKES（KES環境マネジメントシステム・スタンダード）を基盤に環境保護活動に取り組んでいます。近隣の駅や施設、自然、文化に至るまで、学校と地域が強く繋がり発信していく事で、地域に根ざした持続可能な環境保護活動を実現しています。さらに、地球規模での環境問題の解決を目指しています。



優秀賞 広島県立世羅高等学校
アロマプロジェクト
ネズミサシを用いたアロマオイルで里山保全を 未利用資源の新たな利用価値を見つけよう

広島県世羅町は、放置山林が問題。近年、松枯れにともないネズミサシが増えていることに着目しました。アロマオイルが抽出できますが、知名度が低く、活用の場が少ない現状があります。このオイルをスポーツアロマに特化することで販路を拡大し、売り上げの一部を里山保全に活用することを考え活動をはじめました。



優秀賞 広島県立祇園北高等学校
科学部
太田川におけるプラスチックごみの輸送過程と、効率的な回収についての研究

太田川の水質は「きれい」という結果が毎年出ているが、環境汚染物質のMP（5mm以下のプラスチック）が、川底に150個/m²の密度で発見された。本研究では、川の流れをGPSと目視で観測し、MP（ごみ）がどこに輸送され蓄積するのかを調べた。結果、MP（ごみ）が滞在するであろうタイミングと場所を推定することができた。



優秀賞 香川県立多度津高等学校
建築科 & 写真部
地域とともに歩む環境活動 ～今年度も継続！地球の未来を考えた取り組み～

建築科と写真部は、地域との交流を積極的に行っています。【かまぼこ板ものづくり】廃棄されるかまぼこ板を利用。【地元の資源を生かす缶詰】6次産業化に発展し、商品化に向けて動いています。【グリーンカーテン環境活動】花の癒しや食材に満たされています。【古民家の利活用】地元の活力を生んでいます。



優秀賞 福岡県立伝習館高等学校
自然科学部
絶滅危惧種ニホンウナギの水槽から生命に支えられた持続可能な社会を展望する

ニホンウナギを絶滅危惧ⅠB類に指定した時から活動を進め、現在までに柳川掘割と飯江川に約6800尾の稚魚を標識放流しましたが多くを感染症で死亡させてしまいました。水槽にクヌギ落葉を入れると感染症にウナギが罹らなくなり初期死亡が減少することを発見。持続可能な環境が維持されていることが示唆されました。



小泉進次郎環境大臣、笹川博義環境副大臣が、第6回全国ユース環境活動発表大会全国大会で環境大臣賞を受賞した宮城県農業高等学校のメンバーにメッセージを贈り、環境の課題や未来について懇談をしました。リモートでの開催でしたが、大臣、副大臣からは温かいお祝いのメッセージをもらい、とても活発な懇談が行われました。



宮城県農業高等学校 科学部チームsmiles

サクラの新品種開発で桜の緑被率を上げる
～被災農業高校が立ち向かう震災10年目の挑戦！～



小泉進次郎環境大臣 お祝いメッセージ

▶ メッセージ、懇談の記事は抜粋です。懇談会の内容は、動画で閲覧できます。詳しくは、裏表紙をご覧ください。



宮城県農業高校のみなさん、おめでとうございます。
気候変動対策をリードする環境大臣としては、「桜」でCO₂を吸収する取り組みでの受賞を心から嬉しく思います。東日本大震災から10年を迎える今年、復興のシンボルとしても日本人にとって大切な花である「桜」での取り組みはとても意義深いものだと感じています。「桜」がCO₂を吸収する気候変動対策のシンボルになる、そのスタートが今日からだとしたら、こんなに記念すべき日はないでしょう。これからもずっと見守っていきます。今日は本当におめでとうございます。

小泉環境大臣 → 宮城県農業高校

質問&回答

宮城県農業高校 → 小泉環境大臣

小泉
環境大臣

なぜ、桜とCO₂削減という発想がつながったのか？
これ、聞きたいですね。

宮城県
農業高校

もともと私たちは、校庭に残った奇跡の桜で地域の方の笑顔や緑化のために活動していたのですが、最初は心理的な面と桜の物理的な面での復興を目指していました。活動していくうちに、植物の基本的な二酸化炭素を吸って酸素を排出するっていう部分に着目した時に、私たちの活動でそれをもっと加速、手助けができるのではないかとということで桜とCO₂削減がつながりました。

宮城県
農業高校

私たちは、桜で人々の笑顔を広めていきたいと考えているのですが、活動の中で大臣は何を大切にしたらいいと思いますか？何かアドバイスがあればお願いします。

小泉
環境大臣

みんな自身が、このプロジェクトに心の底から楽しみを見つけていることが大事なんじゃないかな。自分自身が、これはやりたい。これは楽しい。そういう風に思える事であれば、自然とやる気になるでしょう。「楽しい」と思ってやるのが一番大事だと思います。

笹川博義環境副大臣 お祝いメッセージ

▶ メッセージ、懇談の記事は抜粋です。懇談会の内容は、動画で閲覧できます。詳しくは、裏表紙をご覧ください。



環境大臣賞の受賞、本当におめでとうございます。
みなさんが、桜の品種の開発と防災林の植樹に取り組んでいただいたということで、環境にも優しく、地域の方も大変喜んでおられる。そしてその植樹した桜の花が大輪となる。ものすごく夢と希望を与える活動だと思います。また、部活動で大事なことは、前に進もうという勇気を持つことと、最初の一步を記したという想い、行動力です。ぜひこれからも最初に思った気持ち忘れずに頑張ってください。今日は、キラキラした、やる気に溢れるみなさんに接することができ、心から感謝を申し上げたいと思います。

笹川環境副大臣 → 宮城県農業高校

質問&回答

宮城県農業高校 → 笹川環境副大臣

笹川環境
副大臣

玉夢桜は、ネーミングがしっかりしていますね、これみんなで考えたの？
塩害を調べると、地区によって違うと思います。いろいろな工夫や養生があったのでしょうか？

宮城県
農業高校

玉夢桜は、玉浦西地区の地域の方々と話し合っってその名前を決めました。活動は、土壌調査をしながら、例えば石巻だったら海が近いので潮風などの影響があって、その影響を踏まえて土壌の硬度や透水性、組成など、私たちが一から調べてどうしたらいいのかを考えました。

宮城県
農業高校

今、SDGsで17項目ありますが、今後追加されるとしたらどのようなものが追加されると考えられますか？

笹川環境
副大臣

この17というのは、国際的な会議の場で、本当に多岐にわたって議論を積み重ねて設定されていると思います。ですから、追加よりも、まずはこの17の目標をどう達成するかということ、中間の検証も含めて取り組むことが、世界的に見ても大切なことだと思います。また、考えること自体も大事です。みなさんなら、何を追加したら良いと考えますか？これってという提案が出たら教えてください。

2021年2月5日(金)、全国大会に出場した16高校が参加し、交流会(全国ユース環境フォーラム)がオンラインで行われました。新型コロナウイルスの影響で、日頃の環境活動が制限されていた中で、1年間の体験談や工夫、これからの地域での環境活動、SDGs活動について活発に意見交換をしました。また、全国ユース環境活動発表大会の主催者などによる環境研修も事前に動画配信されました。交流会の様様をご紹介します。

交流会当日は、4グループに分かれて「交流ワークショップ」が実施されました。ご参加、ありがとうございました。



交流ワークショップ

▶ 交流会の様子は、動画でご覧いただけます。詳しくは、本誌裏表紙をご確認ください。

テーマ 1

新型コロナウイルスの影響でこの1年どのような活動だったか？
当初の計画からどのように変わったか？

回答例

- 商品をオンラインショップでの販売に変更した。また、オンラインでのイベントに注目が集まったので、Zoomで勉強会を1ヶ月に1回程度開催している。
- 以前は全員で活動していたが、現在は2グループに分け小規模で活動している。
- 展示の一般公開ができなくなったが、人数を制限して公開したり、ライブ配信をして普段とは一風違った解説ができた。



司会：GEOC
浦林貴子さん

テーマ 2

他の高校の発表を聞いて… 真似したいこと、一緒にやりたいことなど

回答例

- イワシの缶詰に桜塩を使ってみませんか？
- 外来種対策で行政との連携という実践的なアドバイスをもらった。
- オンライン勉強会に150名集めた方法を聞いた。
- やりがい、喜びについての共通の感想……地域の方のリアクションがあるとやりがいを感じる。
- 小中学生に話をする時の説明内容について意見交換ができた。
- これからの社会での取り組みは、コロナと環境の両方を考えながら進めることを共有できた。

環境研修

▶ 環境研修は、動画でご覧いただけます。詳しくは、本誌裏表紙をご確認ください。



① 環境省
大臣官房総合政策課環境教育推進室
三木清香さん

研修名 環境活動の推進について

1. SDGsの背景、概要
2. 日本・環境省の取組
3. 様々な環境活動



③ 独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金部
廣瀬大輔さん

研修名 地球環境基金の取り組みとSDGs活動

1. 地球環境基金とは
2. 全国ユース環境ネットワーク促進事業
3. ユース世代に係るSDGs環境活動の事例



② 国連大学サステナビリティ
高等研究所
竹本明生さん

研修名 SDGsの国際的な動向・現状
と国連大学の取り組み

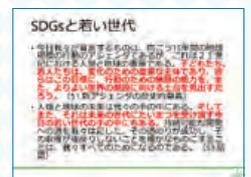
1. SDGsについて
2. SDGsをめぐる国際的な動向・現状
3. 国連大学の活動について



④ 地球環境パートナーシッププラザ
(GEOC)
江口健介さん

研修名 全国ユース環境活動発表大会
事前研修

1. SDGsと若い世代
2. 2030年、2050年の社会って？
3. 地域循環共生圏





しなやかに強く社会課題に挑戦

読売新聞教育ネットワーク記者 小川 祐二郎

新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、授業さえまならなかった1年。果たして、大会は成立するのかと心配していたが、蓋を開けると、全国の高校から87もの団体が応募してきた。高校生はひそやかにレジリエンス（しなやかな強さ）に磨きをかけていたのだ。

環境大臣賞の宮城県農高は東日本大震災による津波に校舎が襲われた。その科学部チームsmilesは津波被害を抑えるため、沿岸などに植える桜の新品種を開発した。メンバーは代々、増殖と植栽を繰り返してきた。震災10年目の2020年、まもなく1000本に達するという。審査では、この品種が沿岸部の塩害に強く、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収量も高いことが評価された。なにより、生徒たちの復興への思いに心が熱くなる。

環境再生保全機構理事長賞の長崎県立諫早農業高は、規格外ミカンを地元の伝統菓子の「おこし」に活用して商品化。焼却するしかなかった果皮は菌床栽培に応用した。国連大学サステイナビリティ高等研究所所長賞の富山県立滑川高はイワシを有効利用しようと、缶詰として商品にした。缶詰に使えない部分は肥料にして植林活動に使った。読売新聞社賞に輝いた愛媛県立長浜高は校内に高校として日本初となる水族館を作り、一般公開して街おこしにつなげている点が高く評価された。

青森県立むつ工業高は地中熱で融雪する試みが参加高校生による投票の結果、高校生選考賞を射止めた。長野県長野高・長野日本大学高はゲーム感覚でゴミ拾いを楽しむ手法が教師の投票で、先生選考賞を獲得した。活動の多くが実証実験を繰り返し、「ポスト・コロナ」の時代に社会実装する姿勢が伝わってくる。私たち大人の背もすっと伸びる思いだ。

読売新聞教育ネットワークのSDGs事業

高校生が挑む海洋プラスチック問題

全国ユース環境活動発表大会を後援する読売新聞社は「教育」をキーワードに高校生向け活動を展開している。医師をめざす生徒向けの医療体験プログラム、愛読書をプレゼンし合うビブリオバトル、新聞記事を使った教材「ワークシート通信」など多彩だ。

昨年は海洋プラスチック問題をテーマとした高校生の研究プログラム「海洋プラ問題を解決するのは君だ！」を8月にオンライン上でスタートした。応募した全国各地の高校生約290人から書類審査で選ばれた約100人に加え、メンター（指導役）の研究者ら約30人が参加。今年2月まで半年かけて解決策を練り上げた。

プログラムは、駒場東邦高等学校（東京・世田谷区）3年の棚澤哲さんら高校生から協力要請を受けた読売新聞社が東大気海洋研究所に呼びかけ、開催が決まった。新型コロナウイルスの感染拡大を見据え、全課程をオンラインで行った。

参加者たちは、プラスチック問題の講義のほかに、研究や情報収集、写真・動画撮影、プレゼンなどの仕方をメンターなどから学んだ。米ハワイ観光局の協力でハワイのプラスチック問題の講義を実況中継で受ける「オンライン遠足」なども楽しんだ。

テーマは、プラスチック製品の（1）代替手段（2）リサイクル手法の最適化（3）海洋環境への影響削減——の三つ。生徒たちはテーマごとに各3チームをつくって現状分析し、解決策を考え出した。中には計43回190時間をかけて討議したチームや、複数の企業に説明し、企業による社会実装実験にこぎつけたチームもあった。

今年2月には、審査と高校生たちの投票の結果、3チームが優秀チームとして選出された。3チームは横浜市で同月に開かれたSDGs関連の国際会議でも成果を発表した。



写真は、オンライン会議システムで全過程を乗り切った高校生の研究プログラム「海洋プラ問題を解決するのは君だ！」

読売新聞教育ネットワークのサイトはこちら →



第6回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会出場高校あて 高校生応援メッセージ



今回、他校の発表動画を見て、地方大会&全国大会の出場校から全国大会出場校あてにたくさんの応援メッセージが届きました。各校あてのメッセージを全部は掲載できませんが、抜粋してご紹介いたします。

ぜひ、同じ地方や全国で環境活動に取り組む仲間たちとの交流を広げ、深めてください。

北海道標茶高等学校のみなさんへ

環境調査・保護しながら、地域と連携をとり地域の活性化に貢献していたのでこれからも続けてほしいです。

(青森県立むつ工業高等学校)

具体的に活動してよかったし、新聞や、テレビや、YouTubeなどたくさん取り組みが広がっていてとても魅力が伝わってよかったです。

(大阪府立豊中高等学校能勢分校)

北海道美幌高等学校のみなさんへ

ウチダザリガニは水質汚染の害を加えていることがわかりました。そのウチダザリガニを駆除するためにそれぞれの場所で協力して駆除してすごいなと思いました。また、そのウチダザリガニをただ駆除するのだけではなく、それを有機発酵肥料として再利用する実験を試みたり、アライグマなどのエサとして再利用してすごいなと思いました。これからも再利用できる方法をたくさん見つけて頑張ってください！

(長崎県立諫早農業高等学校)

宮城県農業高等学校のみなさんへ

地域のために桜を使ってみんなを勇気づける活動いいと思いました。新しい品種を作ったのはすごいなと思いました。

(大阪府立豊中高等学校能勢分校)

内容が分かりやすく、サクラの新品種開発で桜の緑被率を上げる研究は素敵でした。玉夢桜という名前もとても素敵で、多く植樹されるといいと思った。

(富山県立滑川高等学校)

青森県立むつ工業高等学校のみなさんへ

身近な問題から自分たちができる解決策を見出し、さらにその活動を除雪だけでなく作物の栽培などに繋げようとする取り組みがとても素晴らしいと思いました。また、利用方法が除雪だけではないため、他の地域への発信も考えていることにも驚かされました。

(長崎県立諫早農業高等学校)

東京都立富士高等学校のみなさんへ

パーム油から、サステナブルラベルへの課題の変換は、実際に現地に行ったからこそその発想だと思え、感銘を受けました。また、消費者と企業の声を聞くことで双方の考えの相違に気づくことができたのは活動を行う上でとても大切な発見だったと思います。ですので、これからもオンライン勉強会を続け、たくさんのひとに活動が広がり実際の店舗での販売が進められるようになることを楽しみにしています。

(北海道標茶高等学校)

東京都立府中東高等学校のみなさんへ

クエの実験を再生した動画など、とても分かりやすく参考になりました。まだまだこれからの実験が気になります。

(香川県立多度津高等学校)

照射する光の色の違いで、魚の状態が変化するところがおもしろかったです。食糧問題解決に一つ近づくといいですね。とても素晴らしいものだと思いました。(京都府立北稜高等学校)

富山県立滑川高等学校のみなさんへ

イワシを活用して缶詰や廃棄される部位を使って肥料にしており、SDGsにマッチしていると思った。(青森県立むつ工業高等学校)

もとは、滑川のホタルイカ産業においてイワシを有効活用するという点がとても好印象でした。そして、さまざまな苦勞、失敗、改善をされて作られた缶詰は見てのこららを空腹にさせるようなものでした。いろいろな味があって食べ比べもしてみたいと思いました。家族で滑川に行くことがありましたら是非いただきたいと思います。(広島県立祇園北高等学校)

長野県長野高等学校・長野県立大学高等学校のみなさんへ

ごみを楽しく拾うことができる。このことに純粋に驚いた。海などでのマイクロプラスチックによる問題が増えている近年、「海からマイクロプラスチックをどのようにして減らすか」という課題について、「この世界と言うには広すぎるが」多くの人は堅苦しく考えていると思っていた。だが、今回の発表を見て考えが変わった。ごみ収集を、楽しく、継続的に、複数の人と力を合わせて行動できることを知ることができた。

これからも活動を頑張っていってほしいと心から思う。(宮城県農業高等学校)

大阪府立豊中高等学校能勢分校のみなさんへ

高校生なのに地域貢献活動をしてすごいなと思いました。町を巻き込んだ地産地消の活動であることに驚きました。しっかりと地域内でエネルギーを循環させ、地域の活性化に取り組んでいるところがすばらしいと思いました。

(兵庫県立神戸商業高等学校)

学校所在地の地域特性から課題を発見し、解決方法を考え、そして自治体と連携して行動できているところが素晴らしいです。高校生が「シュタットベルケ」で案を閃き、それが学校だけでなく町を動かしている事が、すごいと思いました。事業化もすごいですが、行動力を尊敬します。(神戸山手女子高等学校)

京都府立北稜高等学校のみなさんへ

発表お疲れ様です。私は北稜高校が行っている「学校でたて生ゴミ等をミミズを用いて堆肥にし、ゴーヤや希少植物の栽培に利用している」ということがすばらしい取り組みだと思いました。我々、伝習館高校では学校でたて生ゴミなどはゴミ袋に入れ、そのまま捨てていると聞いています。「学校でたてゴミを捨てず、再利用する」ということは環境面で見ても、MONEYの面でも地球に優しい行動に間違いありません。また、個人的な話ではありますが、私は昆虫を愛してやまない高校1年生なのですが、校内で栽培しているフジバカマにアサギマダラが飛来したということが非常に興味深いと思いました。高校敷地内でアサギマダラが見れるなんて、なんて羨ましいんだ……(福岡県立伝習館高等学校)

広島県立世羅高等学校のみなさんへ

地域の方々との交流が多く、地域に根付いた活動であることに好感が持てました。頑張ってください。里山という日本固有の人と自然が調和した場の保全は世界的に意味があることだと思います。今回の取り組みをきっかけに、里山の維持に向けて、一層の取り組みを進めて欲しいと思います。ありがとうございました。(岡山県立邑久高等学校)

広島県立祇園北高等学校のみなさんへ

目の付け所が面白かったです。MP問題改善については海洋問題としてとらえられがちですが、身近な河川から変えていこうというのとはとてもいいと感じました。これからは、考案した効率の良い回収方法でMP問題解決に向けて頑張ってください！

(大阪府立豊中高等学校能勢分校)

私たちのプロジェクト班もマイクロプラスチック調査活動をしています。今年から本格的に網走川流域全体での調査を行ってきただけの大変さを身にしみて感じているので、今後は祇園北高校の皆さんと活動協力をしていきたいとの思いから投票しました。出来ればこれからお互いに連絡を取り合いながら協力して活動していきたいです。

(北海道美幌高等学校)

香川県立多度津高等学校のみなさんへ

イノシシを使った缶詰がとても印象的でした。現在イノシシやシカなどが民家近くに出没し、全国で問題になっています。ぜひ、イノシシの防除策などにも取り組み、この問題を解決しつつ、地域の活性化に取り組んでいってください。建築科の方々、これからは様々な物を創り多くの人々の助けとなっていくことを願っています。写真部の方々、データとして後世に役立つように様々な物事を撮ってください。これからのご活躍、楽しみにしています。

(香川県立小豆島中央高等学校)

愛媛県立長浜高等学校のみなさんへ

水族館の運営のみならず、商品開発なども含めた幅広い分野で地域一体となる取り組みを壮大に進めており、今後の更なる活躍が大変期待される素晴らしい活動だと思いました。

(福岡県立伝習館高等学校)

21年間で合計11万人を超える人達が来館していること、そして21年間の取り組みを継続してこられたことが、本当に素晴らしいと思いました。これからも頑張ってください。

(京都府立北稜高等学校)

長崎県立諫早農業高等学校のみなさんへ

地域の伝統的な菓子と特産品のみかんを結びつけて、文化の保護や知名度の向上など地域に大きく貢献しながら、それだけでなく、さらに環境という面に目を向けて廃棄物の再利用などの取組を行っているのが素晴らしいと思いました。様々な観点でとても意義のある活動だと思うので、これからも頑張ってください。(福岡県立伝習館高等学校)

福岡県立伝習館高等学校のみなさんへ

くすのき落ち葉で水が浄化される働きを発見した点が面白かったです。落ち葉による浄化システムが面白かったです。

(長崎県立五島高等学校)

発表、お疲れ様でした。絶滅危惧種のニホンウナギの生態など、とても素晴らしい取り組みで、大変興味を持って発表を聞かせていただきました。部員の皆さんがとても生き生きと活動している姿が思い浮かびます。今後も継続して、活動に取り組んでいただければと思います。頑張ってください。(長崎県立諫早農業高等学校)

第6回 全国ユース環境活動発表大会

2020年11月～12月、全国8地方で「第6回全国ユース環境活動発表大会 地方大会」が開催され、全国の高校より「発表動画」の応募をいただき、85校が8ヶ所の地方大会に出場しました。また、

北海道地方大会



地方大会最優秀賞

高校生が選ぶ特別賞

審査委員特別賞

先生が選ぶ特別賞

協賛企業特別賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

北海道標茶高等学校

北海道美幌高等学校

北海道標津高等学校

市立札幌開成中等教育学校

北海道登別明日中等教育学校

札幌新陽高等学校

北海道釧路北陽高等学校

北海道羽幌高等学校

地域環境系列環境ゼミガイド班

環境改善班

自然科学部

Zi'-s

髪の毛twin's

アグリクラブ

1年総合



地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。



メッセージ投稿高校

市立札幌開成中等教育学校

Zi'-s



応援先高校

北海道羽幌高等学校

1年総合

私の住んでいる町には海がないので今まであまり深くマイクロプラスチックについて考えたことはありませんでしたが、今回の活動報告を聞いてその深刻さなどについて深く心に残りました。コロナの影響の中でフィールドワークを積極的に行っていたところも素晴らしいと感じ、私も自分自身の活動を広げて行きたいと思われました。これからも持続的な活動頑張ってください。応援しています。

東北地方大会



地方大会最優秀賞

高校生が選ぶ特別賞

審査委員特別賞

先生が選ぶ特別賞

協賛企業特別賞

協賛企業特別賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

宮城県農業高等学校

青森県立むつ工業高等学校

福島県立岩瀬農業高等学校

盛岡市立高等学校

青森県立名久井農業高等学校

山形県立山形西高等学校

青森県立柏木農業高等学校

青森県立名久井農業高等学校

秋田県立能代高等学校

宮城学院高等学校

宮城県志津川高等学校

宮城県多賀城高等学校

宮城県古川黎明高等学校

福島県立葵高等学校

福島県立福島西高等学校

科学部チームsmiles

課題研究 地中熱利用による融雪研究班

園芸科学科バイオテク専攻班

自然科学部

Treasure Hunters & Jr.

放課後実験倶楽部

生物活用班

TEAM PINE

チームギバサ

自然科学班

自然科学部

SS科学部マツ班

自然科学部エネルギー班

科学部メガカ班

MARA



地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。



メッセージ投稿高校

宮城県農業高等学校

科学部チームsmiles



応援先高校

宮城学院高等学校

自然科学班

人口が増え一人当たり摂取するタンパク質が減ると言うことを発表で聞いて驚きました。実験で酵母を使っているのを見てすごいと思ったし、酵母はパンやビールによく使われているという印象でしたが、酵母にはすごい力があるんだなと思いました。自分自身も食について学んでいるのでとても興味がわきました。



地方大会 (北海道地方大会、東北地方大会、 関東地方大会、中部地方大会)

れました。今年は、Web大会形式で開催されました。
表彰式や応援メッセージでの交流も行われました。

地方大会の「発表動画」は、大会ホームページやYouTubeでご覧いただけます。
詳しくは、裏表紙をご覧ください。

関東地方大会

地方大会最優秀賞	東京都立富士高等学校	学生団体えこま
高校生が選ぶ特別賞	東京都立府中東高等学校	生物部
審査委員特別賞	新潟県立加茂農林高等学校	生命情報コース 環境班
先生が選ぶ特別賞	栃木県立真岡北陵高等学校	商業部 (地域ビジネス研究班)
協賛企業特別賞	群馬県立大泉高等学校	植物バイオ研究部
協賛企業特別賞	群馬県立利根実業高等学校	生物資源研究部 (イノシシチーム)
優秀賞	群馬県立利根実業高等学校	生物資源研究部 (シカチーム)
優秀賞	東京都立国分寺高等学校	生物部カラスバト班
優秀賞	慶應義塾湘南藤沢高等部	環境プロジェクト
優秀賞	オイスカ高等学校	浜と松プロジェクトチーム
優秀賞	加藤学園高等学校	化学部
優秀賞	学校法人静岡理工科大学星陵高等学校	バイオメタン班
優秀賞	静岡県立三島北高等学校	STEM for SDGs生物班

ほかの高校へ応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。

メッセージ投稿高校 東京都立国分寺高等学校 生物部カラスバト班		応援先高校 新潟県立加茂農林高等学校 生命情報コース 環境班
--	--	---

ひとつづくり、ものづくり、ことづくりと3つの観点から環境の保護をすすめている点が素晴らしいと思います。観点が多ければ多いほど研究などは大変になっていくとは思いますがどれも環境保護に必要なことだと思うのでこれからも是非頑張ってください、応援しています!!

中部地方大会

地方大会最優秀賞	富山県立滑川高等学校	海洋クラブ
高校生が選ぶ特別賞	長野県長野高等学校・長野日本大学高等学校	学生団体「Gomitomo」
審査委員特別賞	岐阜県立多治見高等学校	地域探究部自然再生班
先生が選ぶ特別賞	愛知県立佐屋高等学校	作物専攻・科学部
協賛企業特別賞	長野県上伊那農業高等学校	コミュニティデザイン科 グローカルコース
協賛企業特別賞	名古屋市立名古屋商業高等学校	商品開発研究班
優秀賞	福井県立武生東高等学校	なかぼっちゃん
優秀賞	長野県上伊那農業高等学校	バイテク班
優秀賞	岐阜県立八百津高等学校	自然科学部
優秀賞	愛知県立豊橋東高等学校	GLOBE

ほかの高校へ応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。

メッセージ投稿高校 愛知県立豊橋東高等学校 GLOBE		応援先高校 長野県長野高等学校・長野日本大学高等学校 学生団体「Gomitomo」
--	--	--

「清走中～Run for trash～」の発想が面白く、子供から大人まで掃除することを楽しみながらできる素晴らしい活動だと思います。僕はこのような活動は今まであまり知らなかったのですが「Gomitomo」さんの活動を見てとても興味持ちました。今後も頑張ってください。僕も日々の清掃から頑張ります。

第6回 全国ユース環境活動発表大会

全地方大会
共通

主催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会（環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステ
後援：読売新聞社 協力：環境省地方環境パートナーシップオフィス（EPO）／地球環境パートナーシッ
協賛：キリンホールディングス株式会社／協栄産業株式会社／SG ホールディングス株式会社／株式会社タニタ

近畿地方大会



地方大会最優秀賞

高校生が選ぶ特別賞

審査委員特別賞

先生が選ぶ特別賞

協賛企業特別賞

協賛企業特別賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

大阪府立豊中高等学校能勢分校

京都府立北稜高等学校

兵庫県立神戸商業高等学校

京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校

京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校

清風高等学校

学校法人奈良学園奈良学園中学校・高等学校

京都府立北桑田高等学校

京都府立久美浜高等学校

大阪府立千里高等学校

羽衣学園高等学校

須磨学園高等学校・大阪学園高等学校・関西大倉高等学校

神戸山手女子高等学校

兵庫県立篠山東雲高等学校

地域魅力化クラブ

環境委員会

理科学研究部 Kensyo Rikaken

フィールド探究部 巨樹班

フィールド探究部 里山班

生物部 シロアリ班

SS研究チーム

コンピュータ木エチーム

TEAM 松プロ

油取り係

ごみ箱ラッピング

オタマボヤ合同研究チーム

(仮) カメラ部

自然科学部 ウシガエルプロジェクト



ほかの高校へ
応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。



メッセージ投稿高校

大阪府立豊中高等学校能勢分校
地域魅力化クラブ



応援先高校

京都府立北桑田高等学校
コンピュータ木エチーム

地域のヒノキを有効利用し、スマホスピーカーなど子どもから大人まで使用できるものを作っていることや、環境も考えて行っているのがとても良いなと思いました。地元の方と共同でしているところもすごいと思いました。これからも頑張ってください。

中国地方大会



地方大会最優秀賞

高校生が選ぶ特別賞

審査委員特別賞

先生が選ぶ特別賞

協賛企業特別賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

広島県立世羅高等学校

広島県立祇園北高等学校

岡山県立玉野高等学校

岡山県立笠岡高等学校

岡山学芸館高等学校 医進サイエンスコース

岡山県立邑久高等学校

島根県立江津工業高等学校

山口県立下関西高等学校

山口県立下関西高等学校

アロマプロジェクト

科学研究部

チーム小麦

サイエンス部&海の豊かさを守ろう班

マッド・コロネーズ

自然環境チーム

エクステリアコーディネータ班

自然科学科化学班

自然科学科物理班



ほかの高校へ
応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。



メッセージ投稿高校

岡山県立笠岡高等学校
サイエンス部&海の豊かさを守ろう班



応援先高校

岡山学芸館高等学校 医進サイエンスコース
マッド・コロネーズ

一度減少したアマモを、ここまで多くの数に増加させたところを参考にして、笠岡市に生息しているカブトガニの生息数を増加させるために参考にします。同じ瀬戸内の海を守っている高校生がいることを知り、海の豊かさを守っていかうとあらためて思いました。ありがとうございました。



地方大会 (近畿地方大会、中国地方大会、 四国地方大会、九州・沖縄地方大会)

イナビリティ高等研究所
プラザ (GEOC) / ESD 活動支援センター

 地方大会の「発表動画」は、大会ホームページやYouTubeでご覧いただけます。詳しくは、裏表紙をご覧ください。

四国地方大会

	地方大会最優秀賞	香川県立多度津高等学校	建築科&写真部
	高校生が選ぶ特別賞	愛媛県立長浜高等学校	水族館部
	審査委員特別賞	徳島県立阿南光高等学校	緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
	先生が選ぶ特別賞	香川県立小豆島中央高等学校	自然科学部
	協賛企業特別賞	徳島県立徳島商業高等学校	校内模擬会社COMCOM
	優秀賞	愛媛県立宇和島水産高等学校	水産増殖科
	優秀賞	高知県立伊野商業高等学校	商業技術部 (和紙研究会)

 ほかの高校へ
応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。

	メッセージ投稿高校 香川県立小豆島中央高等学校 自然科学部		応援先高校 香川県立多度津高等学校 建築科&写真部
---	-------------------------------------	---	---------------------------------

様々な取り組みを行っていて、とても楽しく動画を見させていただきました。とくに、イノシシを使った缶詰がとても印象的でした。現在イノシシやシカなどが民家近くに出没し、全国で問題になっています。ぜひ、イノシシの防除策などにも取り組み、この問題を解決しつつ、地域の活性化に取り組んでください。

九州・沖縄地方大会

	地方大会最優秀賞	長崎県立諫早農業高等学校	食品科学部
	高校生が選ぶ特別賞	福岡県立伝習館高等学校	自然科学部
	審査委員特別賞	長崎県立対馬高等学校	ユネスコスクール・科学部
	先生が選ぶ特別賞	佐賀県立伊万里農林高等学校	みどりか麺プロジェクトチーム
	協賛企業特別賞	熊本学園大学付属高等学校	Next Nexus
	優秀賞	長崎県立五島高等学校	nature
	優秀賞	長崎県立諫早農業高等学校	生物工学部
優秀賞	熊本県立南稜高等学校	総合農業科環境コース (Team.水土林★)	
優秀賞	鹿児島県立薩南工業高等学校	ESD研究班	

 ほかの高校へ
応援メッセージ

地方大会の発表動画を見て投稿していただいた応援メッセージをご紹介します。

	メッセージ投稿高校 長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部		応援先高校 佐賀県立伊万里農林高等学校 みどりか麺プロジェクトチーム
---	------------------------------------	---	--

私は、木のストローにとっても興味を持ちました。今、マイクロプラスチックの問題解決を様々な方法で行っており、ストローも問題だなと感じていました。そこで、木のストローはとても画期的で実用化するとすごい便利だなと思いました。ぜひ、実用化出来るように頑張ってください！

第6回 全国ユース環境活動発表大会

2020年度全国の高校生の環境活動紹介 (全87団体)

全国の高校生は、今年度、新型コロナウイルスの影響を受ける中でもとても熱心に素晴らしい環境活動に取り組んでいます。

全国87団体の活動事例をご紹介します。

今後の参考に、また情報交換や交流にもぜひお役立てください。



〈表の見方〉
 上段：高校名
 中段：団体名
 下段：活動名

◇ 掲載の地区別 (都道府県) は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。

北海道

8団体

札幌新陽高等学校
 アグリクラブ
 澄川ホタルプロジェクト

市立札幌開成中等教育学校
 Zi's
 SDGsからみる持続可能な街づくり

北海道釧路北陽高等学校
 身近な問題について考えてみた。

北海道標茶高等学校
 地域環境系列 環境ゼミガイド班
 学ぼう自然、守ろう環境
 私たちが発信する自然再生意義

北海道標津高等学校
 自然科学部
 綺麗な海を守ろう！MP（マイクロプラスチック）汚染を地域の環境と生物から探る!!（第2報）

北海道登別明日中等教育学校
 髪の毛twin's
 海に飛んでけOur Hair ～世界の海をCleanに～

北海道羽幌高等学校
 1年総合
 海鳥を守るために～プラスチックと海～

北海道美幌高等学校
 環境改善班
 オホーツクの自然を守れ！PART3
 オホーツクで実践した水と生き物を守る活動

東北

17団体

青森県立柏木農業高等学校
 生物活用班
 豊かな自然の再生と保全へ向けて
 ～白神山地および岩木川河川敷の外来植物駆除活動と緑化活動～

青森県立名久井農業高等学校
 TEAM PINE
 持続可能なサクランボ栽培システム

青森県立名久井農業高等学校
 Treasure Hunters & Jr.
 想いのリレー
 ～農高発 環境技術の開発を目指して～

青森県立むつ工業高等学校
 課題研究 地中熱利用による融雪研究班
 R2 地中熱利用による融雪研究班

盛岡市立高等学校
 自然科学部
 岩泉町龍泉洞地底湖及びその周辺における環境調査

秋田県立能代高等学校
 チームギバサ
 ギバサ（アカモク）の塩害防止剤の研究

宮城学院高等学校
 自然科学班
 食用廃油の資源化

宮城県農業高等学校
 科学部チームsmiles
 サクラの新品種開発で桜の緑被率を上げる
 ～被災農業高校が立ち向かう震災10年目の挑戦！～

「発表動画」応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき
誠にありがとうございました。

宮城県利府高等学校

自然科学部 おいでよ！エコだよ！利府の森
学校廃材を活用した、身近な自然の可視化と楽しみ化

宮城県古川黎明高等学校

自然科学部エネルギー班
現地調査に基づく地熱発電利用の現状と課題へのアプローチ

仙台育英学園高等学校 秀光コース

What you need to know about Environment
～環境問題について知ってもらうために～

宮城県多賀城高等学校

SS科学部マツ班
宮城県多賀城高校Bursa.バスターズ
～多賀城高校の松枯れの原因を探るPartIV～

宮城県志津川高等学校

自然科学部
八幡川河口干潟の生物調査

山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部
メダカを通して、地域の自然を学ぶ

福島県立岩瀬農業高等学校

園芸科学科 バイテック専攻班
宝の山 宇津峰山へ山野草の群生地復活をめざして

福島県立葵高等学校

科学部 メダカ班
会津メダカから見る遺伝的攪乱3
～環境DNA 解析による分布状況の確認～

福島県立福島西高等学校

MARA
食品ロスを減らそう

関東

13団体

栃木県立真岡北陵高等学校

商業部 (地域ビジネス研究班)
竹粉の有効利用と里山保全

群馬県立大泉高等学校

植物バイオ研究部
茂林寺沼湿原における保全活動
～「日本遺産」の原風景再生を目指して～

群馬県立利根実業高等学校

生物資源研究部 (イノシシチーム)
イノシシの侵入防護研究と普及活動

群馬県立利根実業高等学校

生物資源研究部 (シカチーム)
赤城山におけるニホンジカの生態・行動研究と
玉原湿原におけるミズバショウ群生地の保護活動

東京都立国分寺高等学校

生物部 カラスバト班
カラスバト≠こだま カラスバトを絶滅から救え!!

東京都立富士高等学校

学生団体えこま
“えこま”を創る!

東京都立府中東高等学校

生物部
室内における養殖技術の確立

慶應義塾湘南藤沢高等部

環境プロジェクト
人とのつながり

新潟県立加茂農林高等学校

生命情報コース 環境班
ホテルが舞う故郷を目指して

オイスカ高等学校

浜と松プロジェクトチーム
浜と松プロジェクト
～防潮堤工事による環境影響調査～

加藤学園高等学校

化学部
吸光光度法 (全窒素・硝酸の測定) による浄化剤の効用確認

学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

バイオメタン班
バイオメタンを活用した環の文化

静岡県立三島北高等学校

STEM for SDGs生物班
災害時の食料供給を目指した水耕栽培による
よりはやく育てるための条件の検討

中部

10団体

富山県立滑川高等学校

海洋クラブ
持続可能な社会を目指した未利用資源イワシの活用

福井県立武生東高等学校

なかぼっちーむ
コウノトリを守るう
～越前市をコウノトリの飛び交う町にしよう～

第6回 全国ユース環境活動発表大会

長野県上伊那農業高等学校
コミュニティデザイン科 グローカルコース
上農 perfume
～人と森をつなぐプロジェクト～

京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校
フィールド探究部 巨樹班
森と共に生きる
～Our living heritage～

長野県上伊那農業高等学校
バイテク班
「幻の花」アツモリソウを未来に残したい！
～美ヶ原のアツモリソウ保護活動～

京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校
フィールド探究部 里山班
命のゆりかご きよっさんの田んぼを守れ

長野県長野高等学校・長野日本大学高等学校
学生団体「Gomitomo」
海無し県長野からプラゴミを無くす！
「清走中～Run for trash～」

大阪府立千里高等学校
油取り係
布による油の吸着性の検討

岐阜県立多治見高等学校
地域探究部自然再生班
高校生にできる身近な川の自然再生
～実験から実践まで～

大阪府立豊中高等学校 能勢分校
地域魅力化クラブ
高校生の提案で地域電力会社設立！
～エネルギーを変える。まちが変わる。～

岐阜県立八百津高等学校
自然科学部
こんなところにポツンと池や！

清風高等学校
生物部 シロアリ班
シロアリが日本を救う!?

愛知県立佐屋高等学校
作物専攻・科学部
生きものの楽園を目指した水田づくり

羽衣学園高等学校
ごみ箱ラッピング
「ごみ箱ラッピング」

愛知県立豊橋東高等学校
GLOBE
日本ジオパーク認定を目指して

須磨学園高等学校・大阪学園高等学校・関西大倉高等学校
オタマボヤ合同研究チーム
微生物が海を救う!？ はな先輩のオタマボヤ講座

名古屋市立名古屋商業高等学校
商品開発研究班
葦から“Zoo” Synergy

神戸山手女子高等学校
(仮) カメラ部
在来種ニホンイシガメの保全活動と環境DNAの研究

近畿

14団体

学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校
SS研究チーム
校内サギソウ (Habenaria radiata) 群落の
送粉者と送粉システムの研究

兵庫県立神戸商業高等学校
理科研究部 Kensyo Rikaken
海を守ろう！海洋ごみ削減の取り組み

兵庫県立篠山東雲高等学校
自然科学部 ウシガエルプロジェクト
篠山城堀における外来生物の駆除活動

京都府立北桑田高等学校
コンピュータ木工チーム
林福連携による世代を超えたつながりで創る木工製品

中国

9団体

京都府立久美浜高等学校
TEAM 松プロ
守る！海岸松林
～未来のためにできること～

岡山学芸館高等学校 医進サイエンスコース
マッド・コロネーズ
“里海の聖地”におけるアマモ場再生活動と
牡蠣殻を用いた干潟保全

京都府立北稜高等学校
環境委員会
地域を結ぶ環境委員会の取組
～KESを基盤とした環境保護活動～

岡山県立邑久高等学校
自然環境チーム
スクミリンゴガイ捕獲大作戦

「発表動画」応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき
誠にありがとうございました。

岡山県立笠岡高等学校
サイエンス部&海の豊かさを守る班
広がれ！カブトガニの保護活動
～カブトガニは豊かな未来のキーパーソン～

岡山県立玉野高等学校
チーム小麦
「ゆめちから」栽培研究プロジェクト

広島県立祇園北高等学校
科学研究部
太田川におけるプラスチックごみの輸送過程と、
効率的な回収についての研究

広島県立世羅高等学校
アロマプロジェクト
ネズミサシを用いたアロマオイルで里山保全を
未利用資源の新たな利用価値を見つけよう

島根県立江津工業高等学校
エクステリアコーディネータ班
エクステリア ～瓦の可能性～ (ICTの利用へ)

山口県立下関西高等学校
自然科学科化学班
日本冷却化大作戦

山口県立下関西高等学校
自然科学科物理班
太陽光パネル
～表面温度による発電効率への影響～

四国

7団体

徳島県立阿南光高等学校
緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
考えよう 未来の地球のために 私たちができることを

徳島県立徳島商業高等学校
校内模擬会社COMCOM
美波でジャンプ 未来へジャンプ
～まち・ひと・やま 共生プロジェクト～

香川県立小豆島中央高等学校
自然科学部
絶滅危惧種デンジソウの保全活動

香川県立多度津高等学校
建築科&写真部
地域とともに歩む環境活動
～今年度も継続！地球の未来を考えた取り組み～

愛媛県立宇和島水産高等学校
水産増殖科
未来へつなげ 豊かな海
～海洋ゴミを減らしたい～

愛媛県立長浜高等学校
水族館部
日本初の高校内水族館「長高水族館」プロジェクト

高知県立伊野商業高等学校
商業技術部 (和紙研究会)
土佐和紙を世界に！

九州・沖縄

9団体

福岡県立伝習館高等学校
自然科学部
絶滅危惧種ニホンウナギの水槽から生命に支えられた
持続可能な社会を展望する

佐賀県立伊万里農林高等学校
みどりか麺プロジェクトチーム
新商品の販売促進による放置された間伐材の削減

長崎県立五島高等学校
nature
ジオ爺が舞い降りる

長崎県立諫早農業高等学校
生物工学部
地域在来農産物復活プロジェクト

長崎県立諫早農業高等学校
食品科学部
規格外みかんが生み出す新たな地域興しと廃棄物の再利用

長崎県立対馬高等学校
ユネスコスクール・科学部
地域と連携したツシマウラボシジミの保護活動

熊本学園大学附属高等学校
Next Nexus
熊本の食品ロス熊本のため、地球のためにどう生かすか

熊本県立南稜高等学校
総合農業科環境コース (Team.水土林★)
球磨モンの水土林Project★
～人吉・球磨発！水と郷土と緑を育む故郷環境保全活動～

鹿児島県立薩南工業高等学校
ESD研究班
持続可能な社会のために何をすべきか

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



キリンホールディングス株式会社

ポジティブインパクトで、持続可能な地球環境を次世代につなぐ

水や農産物など自然の恵みを利用するキリングroupにとって、地球環境の持続可能性は事業継続の前提であり、容器包装や気候変動影響への対応などのバリューチェーンでの環境負荷低減は経営基盤の強化にもつながります。キリングroupは2020年に改定した「環境ビジョン2050」のもと、ポジティブインパクトで、持続可能な地球環境を次世代につなげます。

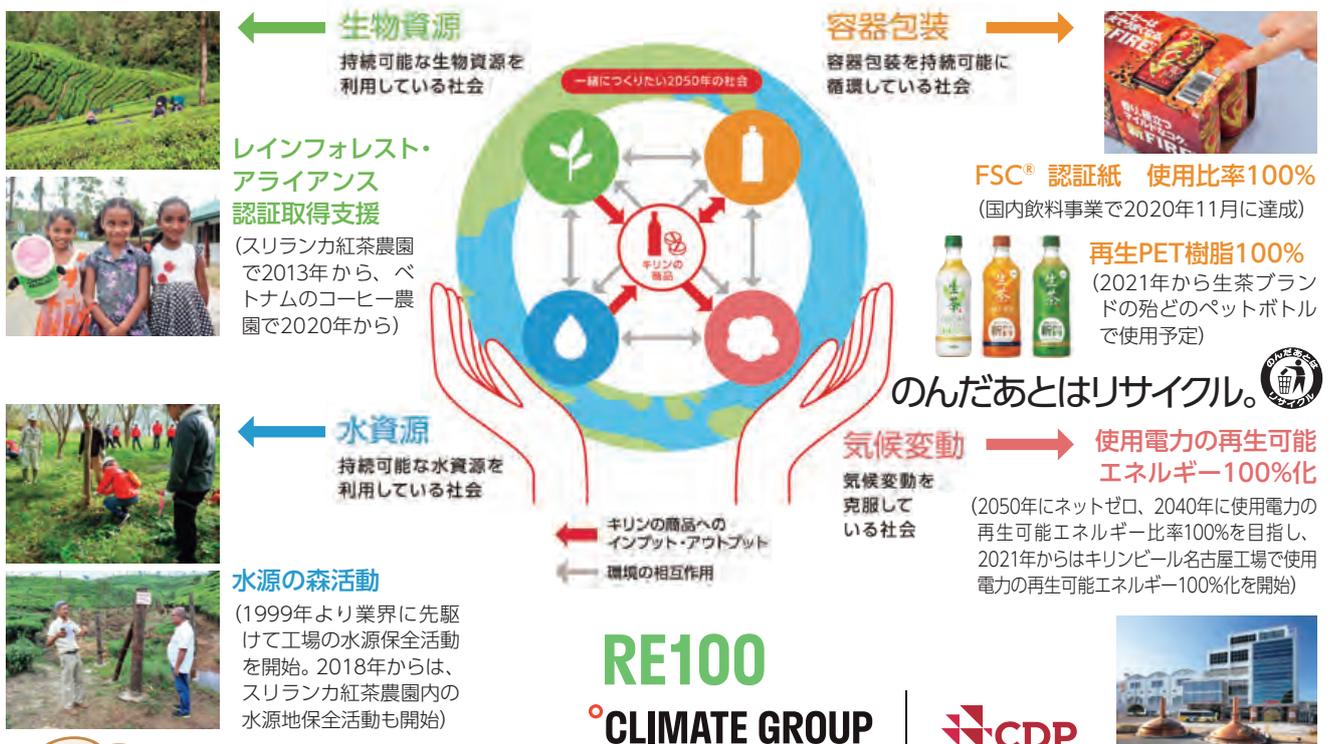
キリングroupの環境への取組み

キリングgroup 環境ビジョン2050 ～ポジティブインパクトで、豊かな地球を～

キリングgroupは、2013年に2050年を目標とする「キリングgroup長期環境ビジョン」を公表して環境の取り組みを進めてきました。

しかし、2015年のパリ協定やSDGsの採択、海洋プラスチック問題など、世界の環境動向は大きく変わってきています。そこで、従来の環境ビジョンを見直し、社会と企業がこれらの環境課題を解決するための新たな長期戦略「キリングgroup環境ビジョン2050」を策定し、2020年2月に発表しました。

キリングgroupが目指すのは、ネガティブなインパクトを最小化してニュートラルにするだけでなく、自社の枠組みを超えて社会にポジティブなインパクトを与えることです。バリューチェーンすべてを対象として、これからの世代を担う若者を始めとした社会とともに、こころ豊かな地球を次世代につないでいきます。



キリングgroup いい話

麒麟は古代の中国に伝わる伝説上の動物で、おめでたいときに現れるといわれる、幸福・吉兆の象徴とされています。また、命を大切にすることから、地に足を下ろさず、虫を踏まず、草を折らない、とも言われています。この伝説上のシンボルをいただく私たちは、「麒麟」のように、豊かな自然環境を次世代につなげていくための取り組みを進めています。

幸せを運ぶ “聖獣麒麟”

～The KIRIN, the messenger of Good Luck～



伝説では、麒麟はよいことがある前触れとして姿を現すといわれています。心優しい動物で、虫や草を踏まないよう、地に足をつけず、空を翔けています。

キリンホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。



協栄産業株式会社 日本初!! 究極のペットボトルリサイクルを実現!

協栄産業株式会社は、全国ユース環境ネットワークの協賛企業として、長年、ユースの環境活動を応援しています。また、毎年、「高校生企業環境研修」を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの影響で現地の研修ができませんでした。今回は、協栄産業の「環境への取組み」をご紹介します。

協栄産業の環境への取組み

日本初「ボトルtoボトル」から 世界初「FtoPダイレクトリサイクル」へ

協栄産業グループは、不純物の完全除去と物性回復を同時に実現するメカニカルリサイクル技術を開発し、2011年5月、同技術を活用した日本初となる「ペットボトルからペットボトルへのリサイクル」＝「水平リサイクル」を実現しました。同技術で製造される再生PET樹脂は石油由来樹脂と同等の品質を有しており、ペットボトルを作る際に新たな石油を使う必要がなく、また、石油由来樹脂と比較してCO₂排出量を63%も削減できることから、当社の再生PET樹脂100%で製造されたペットボトルが多くの清涼飲料水に使用されています。

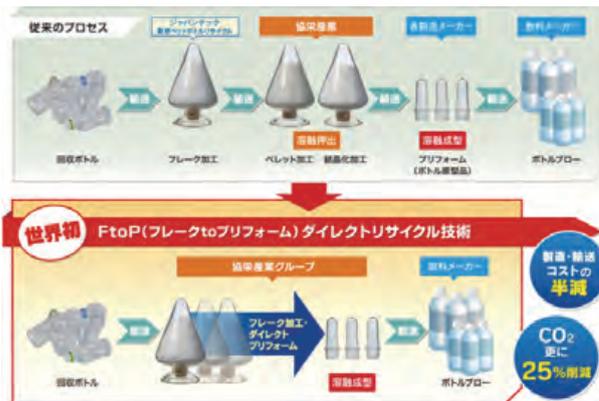
そして2018年には、大手飲料メーカー様と協働で世界初「FtoP^{*1}ダイレクトリサイクル技術」の開発に成功しました。従来のリサイクルプロセスに比べ、輸送・製造工程を半減するだけでなく、CO₂排出量を更に約25%削減する画期的な技術です。この優れた環境効果等から、持続可能性を向上させる新技術として、国内だけでなく海外からも注目を集めています。

(※1) フレークtoプリフォーム

再生PETフレークからプリフォーム（ペットボトルの原型）を直接成形する技術



東日本FtoPファクトリー
フレークtoプリフォーム専用工場



水平リサイクルをさらに推進

海洋プラスチックによる環境汚染問題が世界中で叫ばれ、その早期対策が求められています。

日本のペットボトルリサイクル率は、85.8%^{*2}と非常に高い水準にあります。国内リサイクル率は64%^{*2}程度に留まっています。また、国内での再生PET樹脂利用量の内、「ボトルtoボトル」によるリサイクルは24%^{*2}です。「ボトルtoボトル」という水平リサイクルの推進は、新たなゴミを発生させない「究極の資源循環」であり、海洋プラスチック問題解決の有効な手段の一つになると当社では考えています。そのため当社では、飲料メーカー様や流通事業者様と協働で、使用済みペットボトルの回収網構築を行っています。また、JFEグループ様と合併会社を設立し、三重県津市に国内最大級の再生PET樹脂生産工場を2021年秋に竣工させ、「ボトルtoボトル」＝水平リサイクルをさらに推進していきます。

(※2) PETボトルリサイクル推進協議会 年次報告書2020より

皆さんと一緒に

ペットボトルという貴重な資源を国内循環させることは、石油資源の利用抑制とCO₂の排出量削減だけでなく、海洋ゴミの流出防止にもなります。飲み終わったペットボトルからキャップを外し、ラベルを剥がし、軽く水ですすぐという消費者の皆さんの協力が、再生PET樹脂100%のペットボトルを可能にしています。新技術や新素材の開発だけでは、環境問題を解決し持続可能な社会を実現することはできません。これからもみなさんのご協力をよろしくお願い致します。

協栄産業は、ユースの環境活動を応援しています。

SGH SGホールディングス株式会社

SGホールディングス / 佐川急便
**全国エコメッセージ
 絵画コンクール** 2020

SGホールディングスグループは佐川急便を中核に持つ総合物流企業グループです。次世代を担う子ども達を対象とした環境コミュニケーションに取り組むことを環境方針に定め、2014年から環境絵画コンクールを開催しています。また、中期経営計画の重点施策の1つに「社会を支える物流企業としてSDGsへの貢献」を掲げていることから、2019年度よりSDGsをテーマに取り入れた教材で事前学習を行ってから絵画制作に取り組むプログラムへと変更し、子ども達の環境意識の向上に取り組んでいます。

環境
教育

～環境に関する未来へのおもいを絵にして、多くの人に届けよう！～

環境 × メッセージ × “とどける” みんなにとどけ!エコメッセージ



2020年度の
受賞作品



「平和な夜」

愛知県
小川天音さん（6年）



「きれいな海」

兵庫県
池田賢明さん（3年）

環境大臣賞（最高賞）
2名

環境大臣賞を受賞した2作品は、副賞として佐川急便のトラックにラッピング。64台が全国各地を約一年間走行します。



児童のメッセージをさらに多くの人へ届ける「ポストカード」の提供

2020年度は新たに「チームアクション賞」を新設、クラス単位で応募された学校を対象に、もれなく児童ひとりひとりの作品をポストカードにしてプレゼント。受け取った児童がポストカードを両親に送ったり、友人と交換したり、自らが学んだ環境問題に対するメッセージをさらに多くの人に届ける機会を提供しました。



担当者からのメッセージ

本コンクールは、児童が絵画を通して環境意識を高めることをねらいとしています。2020年度の学習指導要綱の改訂により、学校教育の中でも「持続可能な社会の創り手」の育成が求められる中、国際的な環境問題を学べる映像教材や、児童向けワークブック、教師向けティーチャーズガイドなど、小学校でのSDGs教育をサポートする学習教材を用意しました。事後の教師向けアンケートでは、回答した302名のうち7割が授業実施後に「世界の環境や未来について考える動機づけになった」と回答、本プログラムのねらいである「環境・SDGsの意識醸成」につながっていることを実感しています。SGホールディングスグループは、今後も子どもたちへの環境教育・啓発を目的としたコミュニケーション活動に積極的に取り組んでいきます。

SGホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。

TANITA タニタ × 栃木農業高校

2020年11月7日（土）、栃木農業高校の生徒4名が企業SDGs研修に参加しました。
タニタが推進する全国の郷土料理の活性化、まちおこしのためのイベント『ご当地タニタごはんコンテスト』を視察し、地域のSDGsや農業、食品産業の未来について考えました。



SDGs研修
栃木農業高校：小藤先生、飯塚さん、竹内さん、田澤さん、中村さん
株式会社タニタ：管理栄養士 荻野菜々子さん（右から3人目）

『第4回ご当地タニタごはんコンテスト』 ～ヘルシー郷土料理で健康まちおこし～

イベントのコンセプト

- ① 郷土料理の継承
郷土料理を「健康」という視点からレシピをリ・クリエイトし、郷土料理の新たな魅力を創造
- ② 人材育成
老若男女問わず参加しやすくすることで交流を通じ、文化や技術の継承
- ③ 地域活性化
郷土料理の新たな魅力を引き出すことで、国内・海外の旅行客からの注目を集め地域をPR

コンテストのテーマ

タニタが考える健康的な食事の目安で郷土料理を現代風にアレンジ

企業研修 (SDGs事業の説明)

全国の郷土料理を「タニタが考える健康的な食事の目安」に基づき現代風にアレンジし、安全・安心かつ健康的な「食」のソリューションとしてリ・クリエイト。郷土料理の継承とともに、新しい地域の特産品として広く認知・普及させ、地域の活性化に結び付けます。
「日本を丸ごと食べる」をテーマに予選会および全国大会における外国人などの旅行客を誘致し、これまでにない日本の食文化に触れてもらうきっかけとして当企画を立ち上げました。
来年は、ぜひ高校生のみなさんもエントリーして、郷土料理の活性化に挑戦してください。



コンテスト風景



事前研修風景



講師) タニタ 猪野正浩さん

『第4回ご当地タニタごはんコンテスト』表彰 料理名 (抜粋)

👑 グランプリ

兵庫



明石鯛のロテイ
鯛めしとハーブ・煎茶のお茶漬け等

👑 準グランプリ

京都



ないすなワンプレーとランチ

👑 準グランプリ

大阪



大坂のかつねさんと箱寿司等

栃木農業高校 研修後、SDGsの観点から感想をいただきました。

飯塚 結衣 さん

つくる責任、つかう責任を意識しながら製造の授業をしていきたいです。
授業の中で実習することがあり、食材を使うだけでなく、誰かのために商品を作るという機会が増えました。実習をしていく中で、つかう責任としては、衛生面や安全性に気をつけながら実習をしていきたいと思っています。



竹内 弘太 さん

これからは、形がおかしい規格外の商品やまだ使えるものを捨ててしまったりすることがないようにしていきたいです。つくる責任として、形がおかしくならないように生産していきたいです。そして、SDGs自体をまだSDGsを知らない人たちに自分から発信していけたらいいと思います。



田澤 梨暖 さん

12 つくる責任、つかう責任という目標を達成するために食品の無駄をなくしたいです。今回の料理の中にもあった骨まで使った料理を美味しく食べられるような料理を作ったり、アレルギーの方にも安心して食べられる類似料理を作りたいです。また、14 海の豊かさや15 陸の豊かさを守ろうというのをつなげると思いました。



中村 寿奈 さん

12 つくる責任、つかう責任 食品ロスを減らす
使いきれなかった野菜が傷んでしまったり、賞味期限が切れてしまう食品があるので買う時にどれくらい使うかを考えてから買ったり、いろいろな料理に作り変えたりして減らす。



タニタは、ユースの環境活動を応援しています。

GEOCは、NPO、市民、企業、行政等の各主体がパートナーシップで持続可能な社会の実現を目指す拠点です。

情報発信に加えて併設するセミナースペースは無料で利用することができ、様々な年代・セクターが活用しイベントが実施されており、年間3万人超（2019年度実績）の来場者があります。



GEOCチャンネル

持続可能な社会に向けて、一人ひとりの行動を見つめなおすきっかけになるようなイベントを開催しています。多彩なゲストを迎えて実施した動画をGEOCチャンネルから視聴いただけます。

<http://www.geoc.jp/information/movie.html/>



GEOCオンライン展示ギャラリー

持続可能な社会にむけて取り組むあらゆる主体の活動を発信する拠点として、館内展示を行っています。GEOCのウェブサイト上でも情報発信ができるよう、展示をオンライン化し掲載申込を受け付けています。

(オンライン展示サイト)

<http://www.geoc.jp/onlinegallery/index.html>

(展示掲載案内)

<http://www.geoc.jp/onlinegallery/3.html/>



環境の総合情報サイト「環境らしんばん」

持続可能な社会に向けた活動や環境活動に関する情報を発信していただくためのウェブサイト「環境らしんばん」を運営しています。

自治体・企業・NPO等として団体登録をしていただくことで、イベント情報や報告書の発行、職員・ボランティア・インターンの募集や助成金公募等の情報を掲載することができます。

<http://www.geoc.jp/rashinban/>



地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

<http://www.geoc.jp/>

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

お問い合わせフォーム <http://www.geoc.jp/contact/>



GEOCは、ユースの環境活動を応援しています。

大学生SDGs座談会

独立行政法人環境再生保全機構は、
全国大学生環境活動コンテスト (ecocon) を
共催しています

2021年2月2日 (火)、全国ユース環境ネットワークは全国大学生環境活動コンテスト (ecocon) の協力で、「オンライン大学生SDGs座談会」を開催しました。

大学生からは、今年度の総括として多くの活発な発言があり、交流ができました。



概要 大学生SDGs座談会

主催 独立行政法人環境再生保全機構
共催 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、大学の生活にも大きな影響を与えた。それにより新しい生活への移り変わりを余儀なくされる一方、持続可能な社会において大学生の活動に「新たな日常・価値観」が生まれ、その価値観の実現に向けた新しい活動や取組を実施している。このような状況の変化における大学生の環境活動の実施状況を把握するため、全国各地の環境活動団体を対象に実態調査を行い、その調査結果をもとに座談会形式でコロナ禍における学生活動とSDGsについて議論・意見交換を行った。

参加団体

▶環境・国際団体Deco

サルベージ・レクチャーミーティング・分別推進プロジェクト・あまの傘 (忘れられた傘を回収して必要な人に無償で使ってもらう活動)、部員それぞれが興・ごみ拾い

▶福岡工業大学 社会環境学部 エコFIT

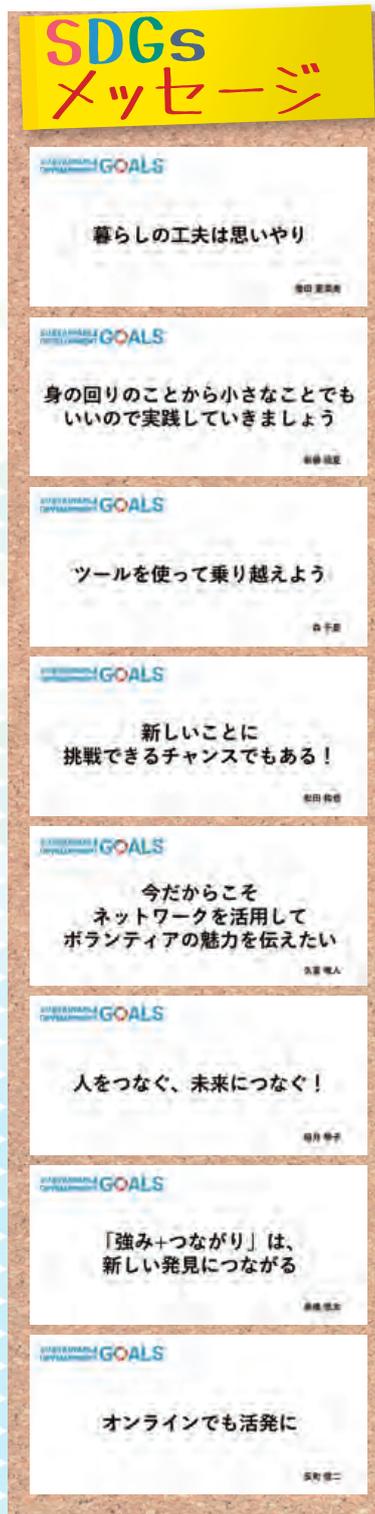
校内のペットボトルキャップ回収、使い回しのエコバッグ回収、校外でNPO法人団体と連携して、他大学と共同で清掃活動やイベントのゴミ分別のブースの運営などの活動

▶新潟環境ネットワーク N-econet

環境啓発活動、県内の学生環境団体のネットワーク構築、団体メンバーのスキルアップ

▶学生団体 em factory

児童・保育園向け (対面式)、高校生向け (WEB方式)、ごみ拾い活動



座談会

全国各地の学生環境活動団体にお集まりいただき、自身の団体の活動の課題について共有し、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下における「SDGs」や「持続可能な社会」について意見交換を行った。

●環境活動の課題について

高橋 活動メンバーが足りなく、活動内容を変更している団体が多いと感じた。つながりのある団体と連絡が取れず、活動規模は縮小したが、オンラインを活用することで短いスパンでの活動ができるようになった。対面の楽しさ、活動の魅力を伝えきれないことが課題点。OBとオンラインの交流会もしており、メンバー間のスキルアップにもつながると実感している。

松田 Zoom等を活用しているが、新規メンバーがお互いどのような人かを深く知れないことが課題。一方で活動のための移動時間等が短縮され、参加がしやすくなったことでメンバーの定着にはつながった。都外からもメンバーが集まったのはオンラインならではの感覚だ。

反町 昨年新規メンバーが加入したが、一度も対面することなく引退した。主に現地で活動する団体であるが、オンライン会議しかできなかったため活動規模が縮小してしまった。

久富 コロナの影響でイベントが全てなくなり、団体の活動もなくなった。先輩とのコミュニケーションがうまくできず引継ぎもうまくできなかった。短いスパンで活動し部員を誘いやすくすることは魅力と感じる。

森 ミーティングが業務報告のようになるなど、活動自体が仕事ようになってしまう。オンラインとなったことで、メンバーとの外食や、雑談などの学生団体らしい交流の時間が減ってしまい、学生らしい活動が難しくなってきたと感じている。

稲月 新入生は人との交流を求めている。団体に所属することで友達もでき、環境のこと知ることできる。その気づきをSNSで発信していきたい。

●SDGsや持続可能な社会について

森 SDGsの掲げた目標を2030年に達成するためにはみんなで協力することが大事。環境団体所属の学生と、環境に興味がない学生とでは環境に関する情報の格差がある。TikTokでランダムにコンテンツが出てくるように、不特定多数の人の目に環境に関連した情報が触れるようになると、より多くの人に情報が届くのではないかと感じる。

新藤 オンライン化が進む中でSNSは重要。環境に興味がない人に興味を持たせるため、環境に関する商品のレビューを出したらどうか。環境に関わる一歩になるのではないかと感じる。

高橋 ラジオを通して、おしゃれと環境をコンセプトに情報を発信している。環境活動があまり華々しくなく、泥臭いイメージもある。オンラインツールを活用し、工夫して発信することが重要。

松田 3年間活動し、環境活動はハードルが高いと思われると感じた。SDGsの達成は生活の中でちょっとしたことを変えるだけで関われるので、そのことを多くの人に発信したい。



発表大会・懇談会・交流会 動画のご案内

「第6回全国ユース環境活動発表大会」は新型コロナウイルスの影響を受け、環境活動の発表動画を審査するWeb発表大会形式での開催となりました。

全国ユース環境ネットワークでは、8地方大会、そして全国大会におけるそれぞれの発表動画、講評、表彰などを収録した「総集編動画」を制作し、懇談会や交流会の動画と共にYouTubeの環境再生保全機構の公式チャンネルで公開しています。また、全応募団体の活動紹介をHPに掲載中です。

ぜひ、全国の高校生たちが熱心に取り組む環境活動・SDGs活動、そして地方大会・全国大会の模様をご覧ください！

① YouTube ERCA 公式チャンネル

発表大会・懇談会・交流会
の動画を公開中！

<https://www.youtube.com/user/ercachannel>



② 全国ユース環境 ネットワーク HP

応募全団体の活動紹介を
掲載中！

<https://www.erca.go.jp/jfge/youth/>



事務局
だより

第6回全国ユース環境活動発表大会を終えて

全国ユース環境ネットワーク事務局です。皆様のご協力により、第6回全国ユース環境活動発表大会を終えることができました。ご応募いただいた全ての高校生の皆さん、先生方に、心より御礼申し上げます。今後も環境活動を継続し、次回の大会にもご応募いただきますよう、お願いいたします！

全国大会で環境再生保全機構理事長賞と、高校生が選ぶ特別賞を受賞した2校の環境活動の紹介をさせていただきます。

環境再生保全機構理事長賞 長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部

長崎みかんのPRを行うため、伝統菓子の諫早おこしとコラボレーションし「みかんおこし」を開発したこの活動は、みかんのPRと同時に地域の活性化にも繋がります。また、みかんの皮を再利用する方法も考え、地域における循環型社会の実現にも貢献しています。



高校生が選ぶ特別賞 青森県立むつ工業高等学校 課題研究 地中熱利用による融雪研究班

「雪かきが不要な通路を確保したい」思いから活動が始まりました。どこにでもある地中熱を活用し、高校生達の手で、融雪装置を設計・製作しました。実証実験からデータを取得し理論立てて活動していく素晴らしい内容です。今後もモノづくりを通して、社会貢献を続けてください！



たくさんのご応募、ありがとうございました！
次回の大会もよろしくお願いいたします！



全国ユース環境ネットワーク事務局

主催：全国ユース環境活動発表大会 実行委員会（環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステイナビリティ高等研究所）
後援：読売新聞社
協賛：キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ

私たちは、ユースの
環境活動を応援しています。



環境再生保全機構からのお知らせ

読み終わった本で環境保全活動に貢献しませんか？



「本de寄付」は本やDVDの買取金額が寄付金となり、NGO・NPOの環境保全活動に役立てられます。

①読み終わった本を 段ボール箱へ

〈送れるもの〉
書籍・コミック・CD・
DVD、ゲームソフトなど

②「本de寄付」に 申し込む

ホームページ
からお申し込み
下さい。



③送料無料で お引き取り

ご指定の日時に
配送業者が無料で
集荷に伺います。

④買取金額が 寄付される

ご寄付額を記載し
たお礼状を交付し
ます。

お問い合わせ(平日10:00~17:00) ●申し込み先 ☎ 044-520-9606

SNSでユース事業のほか、助成団体の活動、地球環境基金のイベント、講座、研修のご案内等を発信しています！

フォローお願いします！

Instagram



twitter

